



おおたに な な み
大谷 菜々美 さん

県立商業高等学校会計科3年生で、簿記部に所属する大谷菜々美さん。5月に公認会計士の短答式試験を受験し、合格率9パーセントという狭き門をくぐり抜け、見事に合格を果たしました。

同校で簿記部に所属していた姉の影響もあり、幼いころから簿記に親しんでいた大谷さんは、中学1年生の時に日商簿記3・2級に合格。高校1年生時には日商簿記1級にも合格し、簿記部史上最速記録を打ち立てました。その後さらに努力を重ね、3度目のチャレンジとなった公認会計士の短答式試験で、同校在学中の合格は史上3人目となる快挙を成し遂げました。合格発表の日は、家族や簿記部の仲間と喜びを分かち合ったといいます。

簿記の好きなところは「問題が解けるとうれしいし、学んでいくと身近な会社の仕組みが分かってきて楽しいこと」と話す大谷さん。平日は7～8時間、休日はほぼ1日中机に向かいます。気持ちが乗らないときには、大好きな温泉でリフレッシュすることが、気持ちを切ることなく継続する秘訣だといいます。

今後は、公認会計士の論文式試験合格を目指し進学するという大谷さん。「在学中に幅広い経験を重ねて、将来は会計だけではなくさまざまな面で信頼される会計士になりたい」という思いを胸に、未来に向け新たな一歩を踏み出します。

発掘調査現場から (319)

朱が付着した土器 ～纏向遺跡第208次調査～

前回(第318回・令和8年7月号掲載)に引き続き、纏向遺跡第208次調査で見つかった特殊な土器について紹介します。

今回紹介する土器が出土したのは、前回多数の木製品が出土したと紹介した「く」の字状に曲がった溝です。この溝からは、3世紀後半頃の土器が多く出土しており、その中には内側が赤く外側全体がすすで黒くなった小型の鉢があります。この土器の内面の「赤」は土器本来の色ではなく、赤色顔料である水銀朱^{すいぎんしゅ}が付着したものと考えられます。同様の特徴を持つ土器は、水銀朱の原料となる辰砂^{しんしゃ}が採れる遺跡でも見つかっています。朱を塗料として使うときに、ニカワなどと混ぜ、火にかけて水分を飛ばして使われたとする考えもあ

り、外側のすすは、そのときの名残かもしれません。

纏向遺跡では、これまでも朱を細かく砕くために使われたとみられる石杵や石臼などが出土しています。こうした遺物や今回紹介した土器などの存在は、纏向遺跡で祭祀などに使用された朱が遺跡内で加工されたことを示すものと考えられます。



▲内側に朱が付着した土器